

年3回行われた外部評価委員会での本院からの丁寧な取り組みの説明、内部評価の提示など、また、年度末の課題研究発表会、連携協力協議会などへの出席を通して提言を述べさせていただきました。

日頃より本院におかれましては、教職大学院の目的・機能を果たすにふさわしい教育課程を編成し、授業（実習を含む）を行い、教育委員会等（NITSも含む）との連携や修了生の学習支援も適切に行い、素晴らしい成果を上げていると思います。

全体としてとても満足できるものですが、その中で二つ、「学生の受け入れ」と「情報発信」について外部評価でBを付けさせてもらいました。詳しくは外部評価書に載せてありますが、「学生の受け入れ」については本院を修了するよさをもっとアピールしたらどうか、「情報発信」については、本院の存在や魅力をさらに学校現場に広く伝えるよう工夫していただきたいということです。この二つのことは、本院の取り組みはとても素晴らしいけれど、これが入学者数の増加につながっていない、これはとてももったいないことであり、もっと本院のよさを学部生に学校現場にそして法人本部などに伝えていくことが必要ではないか、ということの意味しています。

その本院のよさとして特に次の二つについて強調したいと思います。まずは、「課題研究発表会」です。大きなポスターに研究の目的、方法、成果、課題などが的確に示され、限られた時間内でコンパクトに報告していました。短時間であっても、各院生が今まで積み上げてきたものを感じることができるとともに本院の指導の確かさを改めて実感しました。

もう一つは「教育フォーラム」です。今年度から教育フォーラムは修了5年目の修了生が実践報告する形態になりました。教職大学院に在籍している期間だけが学修ではなく、教職についている期間全てにおいて学修することは必至であり、このような試みはとてもいいと思います。教職大学院で学修した理論をいかに現場に生かして実践していくか、理論と実践の往還の実体がここにあると思います。学び続けている教員は輝いて見えます。それは子供たちにもよく分かります。そういう先生に教えてもらう子供たちは幸せです。まさに「学び続ける人こそが人を教えることができる人」だと思います。それが、この教育フォーラムでの修了生の姿です。この二つの本院のよさは是非、広く発信していただきたいと思います。

現職教員学生は選抜されて派遣されてきた優秀な教員ですが、本院での学修でさらに力を伸ばし現場で活躍し、「さすが常葉の教職大学院を修了してきただけのことがある」と言わしめるようになっていただきたい。学部卒学生は、採用試験に合格し2年猶予の学生であっても、そうでない学生であっても、この2年間の学修で教員としての力量をびっくりするほど付け、やはり、「さすが常葉の教職大学院を・・・」と言わしめるように実力をつけていくことが肝要かと思います。すなわち、確かな教員に育てる＝実証を示すことが大事だと思います。本院の素晴らしい先生方が適切な教育課程で指導されているので、力が付かないわけではないと信じています。

とは言え、現状は「働き方改革」、不登校児童生徒の増加、保護者対応など様々な課題が山積み厳しい状況ですが、是非、本院の実力にあった入学者数になるよう祈っています。

これからも、「ファースト19」のプライドと気概をもって、明日の静岡県の優秀な教員育成のため御尽力ください。